

「四海に知己あり、天涯近隣の如し」

(世界中に親友がおり、遠く離れても近隣のように親密である)

承德人民政府外事弁公室副主任 韓旭

日本、私の幼年時代の記憶では、一衣帯水の隣国。そこでは中華5000年文明の影が滲み透り、同時に西方の現代文化と見事に融合し、経済が発達し、人々は平和で健康、我々と同じ皮膚の色と文明の起源を持つ国。私は長い間ずっと心の中で、近づき実際に見聞きたいと思っていました。

本当に日本との接触は、この仕事を始めてからです。承德と柏市は1983年11月に友好都市として正式に締結、27年来行政と民間共々密接な交流を続け、両市市民の友情は相互の訪問を通じ深まり、更に定期的な青少年交流活動はこの貴重な友情を代々伝えられ、次の世代の若者に影響を与え、伝統のある友誼は更に新鮮な血液となり、更に若いに力となって来ました。

2010年7月とうとう宿願が叶えられました。初めての日本の土、友好都市—柏市に着きました。日本の人々は素朴で、誠意があり、生活に対して意欲に満ちていました。還暦を遥かに超えたお年寄りや若い人々が一緒にひらひらと踊っていました、35℃の炎天下を一生懸命に、玉の汗をかき、それでも疲れも見せずに。清潔できちんとした路上では、行き交う人々は忙しそうですが、誰もが交通規則を守っています。人々は懸命に仕事をしますが、同時に満ち足りて生活を享受しています。このように実際に見聞きして初めて、日本では東洋と西洋の性質の相反する文化が全て受入れられて来た事を理解することができました。これら一切の事を、私も我が団全員も深く体得したのです。

今回引率した10名の青少年は、全員日本の一般市民家庭に宿泊し、最初から最後まで各家庭の至れり尽くせりのお世話を受けました。双方言葉は通じなくても、色々思案をめぐらし交流し、子供たちは生活を共にする中で、相互尊重、人に接するマナー、道徳の遵守等を学び、更に日本人の事に当たりいささかもおろそかにしない態度、生活に向き合う時は終始一貫して意欲を持つこと、友人に対しては純真に真心がこもっている事、などを学びました。

これらは必ずや彼らの一生の巨大な宝物になると思います。

ここに再度、柏市国際交流室、柏市国際交流協会および承德委員会の全ての友人の皆様に心よりお礼申し上げます。承徳の学生達をホームステイさせて頂いた柏市のご家族の平安とご健康をお祈り申し上げます。帰国後早や1カ月が経ちますが、真夏の炎天下忙しく立ち働いておられた皆様のお姿が未だ目に浮かびます。長い時間が経ってもさらに新たに、あなた方の真心や誠意が、私が責任を持って引き続き両市の友好交流事業を推し進め、不断に前進させてくれるのです。お別れ会で私は、「友情は国境も、年齢も超越します」と述べましたが、これはその時の真実の感想でした。両市行政の正しい指導の下、両市市民の共同の努力により、承德と柏市の友好姉妹都市の友情が不断に深まり、更に多くの分野での実質的な共同事業が発展することを心より祝福致します。

両市の友情が末永く続きますように！

柏市のお友達のご家庭が揃って楽しく、幸せで、健康であるようお祈り申し上げます！